【令和７年度普及活動報告一覧】

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告　令和７年５月

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■ 水稲（種子）・三郷米麦採種生産組合　水稲優良種子の生産に向けた支援

恵那市の三郷米麦採種生産組合は、美濃市の組合とともに岐阜県の２大水稲種子生産拠点の一つで、翌年度に県内の水稲生産に使う５品種の種子（種もみ）を生産している。

同組合では、4 月以降、田植え前の苗の生育揃いや病害虫発生の有無、管理状況を品種ごとに確認する「苗審査」を、延べ４日かけ実施した。

当日は組合役員の協力のもと、JAや農業普及課が審査・指導員を務めた。審査の結果、苗は順調に育っており、健康な状態であると認められ、全ての苗が合格となった。

【苗審査の様子】

令和７年度は従来から生産してきた品種「コシヒカリ」、「あきたこまち」、「ココノエモチ」、「あさひの夢」に加え、新たに高温耐性と収量性に優れた「にじのきらめき」の種子生産に取り組む。

農業普及課では、関係機関と連携し、圃場審査や巡回指導、栽培講習会を通じて、今後も優良種子安定生産に向け、指導・支援していく。

（地域支援係）

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告　令和７年６月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■農福連携　　恵那地域農福連携推進会議にて本年度活動計画を決定

農業分野の労力確保と、福祉分野における障がい者の就労先確保や社会参加等の拡大を目的に、岐阜県では「農福連携」が推進されている。恵那農林事務所管内でも、いくつかの農福連携活動が実践されているが、一層の活動拡大に向けて、農林事務所主催により、恵那地域農福連携推進会議を６月 12 日に開催した。

本会議では、前年度までの活動状況や課題を検討し、それらをふまえ、本年度の活動方針ならびに計画を決定した。本年度はあらたに取り組む福祉事業所等の確保を目的とした、トマト生産者圃場での農福連携現地研修会を開催するとともに、道の駅等を訪問し、「ぎふノウフクサポーター※」への登録促進を実施するなど、積極的な活動を展開することとした。

農福連携は農業と福祉という異業種連携故の難しさがあり、取組は容易な事ではない一方で、双方においてメリットも存在する。農業普及課ではコーディネート機能を発揮し、マッチングを支援しながら、本活動の新規導入と拡大に向けて、鋭意取り組んでいく。

（園芸産地支援第一係）

【農福連携推進会議の開催状況】

※ぎふノウフクサポーター：農福連携により生産された農産物・加工品等の商品を、積極的に取り扱う意向を有する企業・団体等を登録する制度。

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告　令和７年７月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■クリ　「第２回栗新規栽培チャレンジ塾」の開催を支援

【剪定士の説明を聞く受講者】

東美濃栗振興協議会では、新規栽培者等への実践的な技術取得や先輩農家との交流による仲間づくりを支援するために「栗新規栽培チャレンジ塾」を年６回開催している。7/5(土)にその第２回が、協議会員向け研修である「東美濃栗振興協議会夏季剪定講習会」と合同で開催され、塾生 23 名・協議会員 45 名が参加した。

岐阜県独自の剪定方法である超低樹高栽培では、夏に翌年の結果母枝候補の充実と防除効果を高めることを目的に、余分な枝を取る夏季剪定を行う。今回、農林事務所は、夏季剪定の目的や、夏季の栽培管理について説明し、管内クリ園での害虫発生状況や着毬状況等の情報提供を行った。その後、3 班に分かれて、東美濃栗振興協議会が認定した名人剪定士らが剪定を実演し、それをもとに参加者が演習をした。

今回のチャレンジ塾では、新規栽培者や栽培希望者が夏季剪定の技術習得ができただけではなく、既存生産者との交流を深められた会となった。

恵那農林事務所は、クリの栽培技術支援を通じて、東美濃栗振興協議会の産地出荷量の維持拡大に向けた取り組みを支援する。

（園芸産地支援第二係）

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告　令和７年８月

恵那の農畜産物のブランド展開

■夏秋トマト・東美濃夏秋トマト生産協議会　猛暑対策の構築に向けて

【調査の様子】

東美濃夏秋トマト生産協議会の下部組織として技術部会が設置されており、そこで、生産者が導入すべき技術について、実証圃を設けて検討が行われている。

ここ数年の猛暑の影響により、本来であれば、９月以降着果し収穫できるはずの花が落花してしまい、後半の出荷量が減少している。

そこで、令和６年度から技術部会員を中心に猛暑対策に向けた実証圃を県単独事業の活用により設置し、ハウス内気温を下げるための方策について検討が進められている。今年度は、遮熱資材に着目し、現在導入されている遮光資材や遮光（熱）塗布剤との比較試験について管内３カ所で実証を行っている。

恵那農林事務所では、おんどとり（環境データ測定・記録機器）を活用しハウス内気温、日射量の測定や、サーモグラフィカメラを活用し果実・葉面温度の測定、一定間隔での生育調査を行い、当産地に適した遮光（熱）資材の提案を予定している。

今後も産地の課題解決に向けた提案や活動を継続して行っていく。

（園芸産地支援第一係）

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告　令和７年９月

恵那の農畜産物のブランド展開

■クリ・東美濃栗振興協議会　**産地出荷量確保に向けて**

【害虫発生状況調査】

東美濃栗振興協議会は、中津川市、恵那市のクリ生産者のうち、ＪＡを通して共同出荷する組織で、約 150 名の生産者（個人、法人）が加入し、栽培面積は 145ha、出荷量は 120t である（R6 実績）。産地としては、高齢化による栽培休止、クリの高樹齢化による収量減少、異常気象などにより、生産量が不安定になっていることが課題である。

農業普及課では、生産量を安定させるための方法の一つとして、長年クリの重要害虫であるモモノゴマダラノメイガのフェロモントラップ調査に基づく防除適期情報の提供を行ってきたが、今年度からクリイガアブラムシ、ネスジキノカワガなどの発生状況調査も開始した。その結果、これまで防除を行っていない時期に害虫の発生とその被害を確認したため、役員会や研修会で情報提供を行った。

今年度は害虫発生消長や被害状況の実態把握に留まったが、今後は次年度に向けて防除体系を見直すとともに、協議会員への情報提供を行い、クリ生産量の安定に向けた取り組みを行っていく。

（園芸産地支援第二係）

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告　令和７年 10 月

恵那の農畜産物のブランド展開

■恵那花き研究会・東美濃栗振興協議会　**岐阜県農業フェスティバルで品目ＰＲ活動を実施**

「恵那花き研究会」は東濃４市の花き生産者、一方の「東美濃栗振興協議会」は中津川市及び恵那市のクリ生産者で構成される組織である。両組織は毎年、岐阜県農業フェスティバルにおいて、品目ＰＲ活動を行っており、本年も 10 月 25 日と 26 日の二日間、組織会員が生産したシクラメンとクリ「ぽろたん」を対面販売しつつ、品目の特徴等を来場者に説明、販売促進を実施している。

農業普及課では両組織の活動を支援しており、シクラメンについては、花持ちを考慮した管理や、花色や花形で迷う来場者へのアドバイスをおこなった。また、クリについては、渋皮が向ける品種「ぽろたん」の焼き栗を商材に、品種の特徴や、家庭での焼き方等を説明しつ、販売そして消費を促進した。

両ブースの来場者は、組織役員や農業普及課職員らの説明を聞きつつ、購入するシクラメンを楽しく迷ったり、焼き砂利で香ばしく焼かれる「ぽろたん」珍しそうに眺め、おいしそうに食す姿が印象的であった。

販売は生産以上に難しい一面もあるが、農業普及課では今後も産地振興に向けた取組として、継続的に支援する。

（園芸産地支援第一係・園芸産地支援第二係）

【シクラメンブースの開設準備】

【「ぽろたん」焼き具合の確認】

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告　令和７年１１月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■指導農業士　　担い手リーダー研修会を開催

【ＧＬＡＭＡいきいきネットワーク視察研修会】

岐阜県指導農業士東濃ブロック連絡協議会は 11 月 13 日、中津川市で担い手リーダー研修会を開催した。気象予報士による講演や女性農業者の経営事例紹介などを通じ、参加した指導農業士らは持続可能な農業経営に向けた知見を深め、県内農業者との交流を深めた。

同会は、岐阜県知事から農業担い手リーダーとして認定された８名の農業士で構成され、農業大学校学生の研修受け入れや農業高校への出前講座などを通じ、東濃地域における次世代の担い手育成を推進している。情勢把握と情報共有を目的に、これまでもＧＬＡＭＡいきいきネットワーク東濃ブロックおよび東美濃青年農業士会との合同研修会を定期的に開催してきた。

今年度は、「ＧＬＡＭＡいきいきネットワーク視察研修会」に合わせて実施され、３名の指導農業士が参加した。研修会では、恵那市在住の気象予報士が「持続可能な農業のヒント」と題して講演。地球温暖化が農作物へ及ぼす具体的な影響について解説し、参加者は今後の農業経営における気象リスク管理の重要性を再認識した。また、東濃地域の女性経営アドバイザーによる経営事例の紹介や県内各地の特産品が集まるマルシェも開催され、地域を超えた女性農業者との交流を深める機会となった。

農業普及課は、岐阜県指導農業士東濃ブロック連絡協議会の事務局として運営を支援している。今後は、農業大学校や農業高校への出前講座などを通じ、引き続き同会と連携しながら、地域農業の担い手育成に取り組んでいく。

（農業普及課長）

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告　令和７年１２月

恵那の農業・農村を支える人材育成

■指導農業士・青年農業士　農業関係高校・農業大学校における出前講座の実施を支援

指導農業士東濃ブロック連絡協議会と東美濃青年農業士会は、12 月 9 日に恵那農業高校、12 月 15 日に岐阜県農業大学校において、生徒・学生に対し農業者の経験談・考え方や農業の魅力を伝える「出前講座」を実施した。

本講座は、次代を担う青少年に対し、恵那・東濃地域の農業への理解や将来の就農への意欲を高めるため、両農業士会の活動事業に位置付け毎年実施している取り組みで、知事認定の農業担い手リーダー（指導農業士、青年農業士）延べ 8 名が 2 校に出向いて、講話や交流会での意見交換などを行った。

講話では、各農業士より、就農に至った経緯から現在までの道のり、経営上の苦楽や夢、今後、社会に出ていく生徒達へのエールも込めた思いが語られた。

交流会では、生徒達から「学校の授業とは違う目線で農業を考えることができた」、「今は焦らずやりたいことをやればいいという言葉が印象に残った」などの声が聞かれ、農業士それぞれの立場から、進路の悩みを踏まえたアドバイスもあり、とても有意義な時間となった。

今後、1 月 16 日にも阿木高校で同様の出前講座を予定しており、農業普及課では、両農業士会や各学校と連携したこの出前講座の企画などを通して、一人でも多くの農業関係高校の生徒が農業大学校へ進学したり、将来、農業を職業の一つとして選択してもらえるよう取り組んでいく。

恵那農業高校出前講座

農業大学校出前講座

（地域支援係）

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告　令和８年１月

安心で身近な「恵那の食」づくり

■トマト、ＧＡＰ　東美濃夏秋トマト生産協議会ＧＡＰ内部監査を実施

東美濃夏秋トマト生産協議会は、中津川市、恵那市のトマト生産者１１０名からなる団体である。１月に入り、協議会では会員の「ひがしみのＧＡＰ」の実施状況を確認中である。

「ひがしみのＧＡＰ」は、協議会独自で設けたルールに基づき生産者全員が「安全なトマト生産、環境への負荷低減、生産者の労働安全、経営の継続」を目指して取り組んでいるローカルＧＡＰである。

普段は個々の判断で実践しているものの、産地としてのレベル維持のため毎年一定数の生産者を選び、生産者役員、ＪＡひがしみの・農業普及課担当者による客観的なチェックを行っている。

１月２２日は、協議会の１支部である中津川市夏秋トマト生産協議会の内部監査を行い、農薬・燃料の保管状況、収穫残渣の廃棄方法、農作業事故回避のための対策等の聞き取りを行った。

こうした取組は産地の信頼、維持にもつながることから、農業普及課としても継続支援を行っていく。

【農薬保管庫の施錠機能の確認】

（園芸産地支援第一係）

恵那農林事務所農業普及課の普及活動報告　令和８年２月

安心で身近な「恵那の食」づくり

■直売所・地消地産　恵那地域農産物直売所等研修会を開催

【農薬の適正使用について指導している様子】

恵那農林事務所は、２月２７日に恵那地域の農産物直売所や学校給食食材供給者を対象とした農産物直売所等研修会を開催し、３４名が参加した。

恵那地域には、地域に根ざした活動を展開する大小３０か所余りの農産物直売所・食材供給があり、地消地産を支える重要な存在である。本研修会は、直売所の活動活性化と適切な農薬使用・農産加工品の表示方法に関する知識向上を図るため、毎年開催している。

今年度は、合同会社いちごいちえ　総合経営プランニング代表社員遠山氏を講師に迎え、直売所の経営力向上についての講演が行われた。講演では、「経営とは何か、直売所に来店されるお客さまはどのような人か」といった問いをもとに、参加者が自ら考えながら理解を深める内容となり、実践につながる学びが得られた。また、農業普及課からは農薬の適正使用について、恵那保健所からは適切な食品表示について、最新の情報を交えて説明し、農産物の安全性と信頼性向上に向けた意識が高められた。

農業普及課では、今後も地域の直売所が活性化し、消費者からより一層信頼される運営が行えるよう支援していく。

（地域支援係）